



# Kodak

## 最大で3ヵ月かかっていたICCプロファイルの作成が、 今ではわずか1週間で行えます。コダックのColorFlowが カラーマネージメントの手間と時間を劇的に削減しました。

Prinerger ワークフローシステムの信頼性、ColorFlow カラーマネージメントソフトウェアの精度と使いやすさ、InSite ポータルシステムの可能性を高く評価して、長年使用してきた他社製ワークフローからコダック製品に一新。

### 新聞広告製版を得意とする ワンストップサービスの老舗製版会社

東京都千代田区に本社を構える株式会社東京ニュースは、広告印刷物の企画制作からデザイン、DTP、製版、印刷まで一貫して手がける老舗製版会社である。1950年の創業以来、同社のビジネスの中核を担ってきた新聞広告製版分野では、マスコミ、広告代理店・制作会社、クライアント企業など幅広い顧客から大きな信頼を得ている。凸版からフィルム、デジタルデータへと納品形態が大きく変わっても、その信頼に揺るぎは

ない。背景にあるのは、長年にわたって蓄積してきた豊富な経験と自社独自の卓越した製版技術・画像処理技術だ。これにより新聞・雑誌業界が推進する NSAC（新聞カラー広告の色基準）や JMPA カラー（雑誌カラー広告の色基準）への対応はもちろん、新聞社独自の色傾向までも加味した精密な原稿調整を行い、本印刷機による色校正や見本紙の出力・印刷、データ送稿までワンストップのサービスを提供している。こうした高い技術力をベースに、カタログ・ポスターなどの商業印刷分野や POP・ノベルティ商品の制作分野などにも幅広くビジネスを展開している。

### 機種選定に関わったスタッフ全員が 選んだPrinerger ワークフローシステム

同社が新しい RIP の導入を模索したのは、既存ワークフローの更新時期が近づいたことが理由だった。バージョンが古くなり、保守期間も終了したため、これを機会に生産工程全体をゼロから見直して、自社に最適なワークフローを導入しようと考えたのだ。代表取締役社長の田村壽孝氏は、「現場が使いやすい RIP にしたい」と機種選定を現場に任せた。この意向を受けて、製造部門を管轄する取締役の橋本茂氏と河合克人氏を



代表取締役社長 田村 壽孝氏



取締役 橋本 茂氏



取締役 河合 克人氏



データデザインセクションマネージャー 鈴木 和輝 氏

中心に、現場のマネージャーなど6名が、競合各社の製品をきめ細かくテスト・検証した。その結果、全員一致で選ばれたのが Kodak Prinergy ワークフローシステムだった。代表取締役社長の田村壽孝氏は、Prinergy を次のように評価している。

「製版会社にとって RIP はエンジンです。このエンジンを信頼できなければ、ビジネスを進めることはできません。その点、バージョンアップを重ねながら RIP の信頼性を高めてきた Prinergy なら、安心して導入できます。ColorFlow と InSite も皆に高く評価されました」

RIP としての性能と信頼性が高く評価されたのももちろんだが、Kodak ColorFlow カラーマネージメントソフトウェアの精度と使い勝手も決め手のひとつだったと河合取締役は指摘する。

「ColorFlow は ICC プロファイルをどの出力機に適用しているかなど、カラーマネージメントの仕組みや流れが分かりやすく画面に表示され、誰もが簡単に使えると感心しました」

同社の仕事の流れを実機でシミュレーションしたコダックのプレゼンテーションも同社に安心感を与えたようだ。



CMSの仕組みや流れが分かりやすいColorFlowの画面



株式会社トライアル 塩畑 智史 氏

グループ会社で製版業務を担当する塩畑智史氏は「導入前テストの段階で、弊社の印刷物を目の前で測定し、その場でレポートを作成して貰い、数値で確認した上で次の方針を決めるなど、導入後のイメージが掴みやすく、信頼できた」と話している。ColorFlow のレポート機能は簡単に比較が出来るので、マッチング精度の確認が容易に出来るのである。

### ColorFlow がカラーマネージメント作業の手間と時間を劇的に削減

新聞雑誌広告の色校正では、掲載紙が定める色基準を正確にシミュレートしなくてはならない。そのためには NSAC や JMPA カラーの色空間を再現する精密なドットゲイン調整カーブや ICC プロファイルが不可欠になる。その一方で通常の印刷物は Japan Color2011 で印刷しているため、同社のカラーマネージメント環境はどうしても複雑になる。このため、構築（マッチング）から維持管理（マネージメント）するには膨大な手間と時間がかかっていた。こうした従来の作業環境を振り返りながら、製版部門の鈴木和輝マネージャーは、ColorFlow の導入効果を次のように話している。

「カラーの目標値を決めて印刷、測定、調整を何度も繰り返すドットゲイン調整カーブやプロファイルをつくるのですが、これまでは最大で3ヵ月かかる場合もありました。しかし ColorFlow の自動作成機能を使えば、一発で許容範囲内に収まりました。目視用画像での確認を含めても1週間あれば、正確にチューニングできます」

導入前のデモでは半信半疑だった橋本取締役

も手放しで喜んでいる。

「ColorFlow は、負担になっていたカラーマネージメント作業の手間と時間を減らして、コスト削減に大きく貢献しています。使い勝手も良く、スピーディでミスのない作業環境が構築できました」

印刷機の基準値策定からドットゲイン調整カーブ、ICC プロファイルの作成までトータルでカバーしたコダックのサポートもあって、Prinergy の実稼働まで1ヵ月もかからなかった。

### InSite はお客様との絆を深めるコミュニケーションツール

同社では Prinergy、ColorFlow と同時に Kodak InSite プリプレスポータルシステムも導入した。

「当社のお客様との親和性を大切にしている Customer Intimacy を事業方針のひとつに掲げています。お客様に寄り添い、お客様の困っていることにどう対処するかが重要で、InSite はお客様との絆を深める確かなツールになるのではないかと期待しています」

InSite の導入目的をこう話す田村社長に続いて、橋本取締役は次のように話してくれた。

「お客様が楽になるコミュニケーションツールとして、教育関係のお客様に InSite を提案しています。制作会社のお客様とも面白い使い方ができるのではないかと考えています」

発行部数の減少が続くなど新聞・雑誌広告を取り巻く環境はとてつもない。同社もまた得意分野を強化しながら、新分野への挑戦が不可欠だ。その意味でコダックの InSite が、同社の挑戦を支えるツールとなることは間違いなさそうだ。

**株式会社東京ニュース**



代表取締役：田村壽孝  
本社所在地：  
〒101-0047 東京都千代田区神田1丁目12番6号  
TEL：03-3293-3911 (大代表)  
<http://www.tnews.co.jp/>

## コダック 合同会社 グラフィック コミュニケーション事業本部

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-9 TEL.03-5577-1200  
大阪：06-6105-9670 名古屋：052-746-1290 福岡：092-707-0180  
仙台：022-290-2070 札幌：011-590-5070 金沢：076-200-9583  
製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com  
<http://www.kodak.co.jp>

